

ABUKUMAHAKUHO High School News vol.3

① 田村市内の子ども食堂で、規格外野菜を使った料理を提供

総合的な探究の時間「アクティブプロジェクト・フードロス班」では、規格外野菜のロス削減を目指して活動しています。「コラッセふくしま」様での販売会をはじめ、規格外野菜の活用に向けた活動を行ってきました。活動を進める中で「野菜の集荷や移動」という大きな課題が見えてきました。そこで、「採れたての規格外野菜を、もっと地域の中で循環・消費できないか？」という問いから生まれたのが、今回の子ども食堂との連携です。廃棄されてしまう規格外野菜から生まれる笑顔の循環を、田村市に作っていきたいです。



② 地域課題自分ゴト化プログラム

毎年本校で参加している福島大学地域未来デザインセンター主催「地域課題自分ゴト化プログラム」に、今年も本校から3名の生徒が参加しています。本校以外では、郡山女子大学附属高校、いわき湯本高校の生徒が参加し、学校の垣根を超え、探究活動に取り組んでいます。

7月29日～30日はいわき方面に、8月5日～6日は会津方面にフィールドワークに行きました。8月21日には、2つのフィールドワークの振り返りや今後の探究テーマを設定しました。参加回数を重ねるたびに、生徒たちは自分たちの知らなかった世の中の課題に触れ、「自分ゴト化」して考えるようになっていきます。今後の生徒たちの成長が楽しみです。



③ 都路地区フィールドワーク

8月21日（金）に都路地区フィールドワークを実施しました。10年前に旧船引高校生徒が訪ねた場所を再び訪れ、東日本大震災で田村市唯一の避難指示が出た都路地区の復興状況を確認してきました。10年前の写真と見比べながら、生徒たちは都路地区が確かに復興していることを実感しているようでした。



福島県立あぶくま柏鵬高等学校

Mail abukumahakuho-h@fcs.ed.jp

本校舎 Tel 0247-82-1511 Fax 0247-82-5233

小野校舎 Tel 0247-72-3171 Fax 0247-72-6211

HP

広告欄 : Advertisement

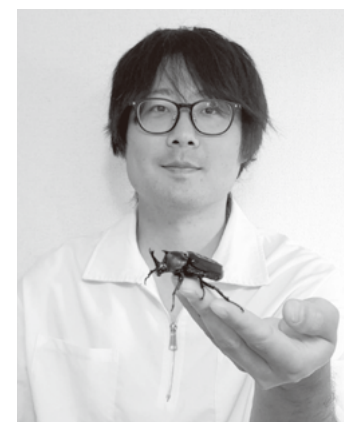
有料広告募集中

問い合わせ…総務部 総務課 (☎0247-81-2117) へ

地域おこし協力隊奮闘記

カブトムシによる地域活性

田村市の皆さまこんにちは、5月より田村市地域おこし協力隊に就任しました、和田宇史です。受け入れ先団体である株式会社TOMUSHIに所属し、TOMUSHIで培ったカブトムシの飼育技術や餌の加工技術を田村市でも活かしながら、カブトムシの飼育に取り組んでいます。また、ムシムシランドとも協力し、「昆虫の聖地 田村市」の魅力を全国へ広げていけるよう努めます。どうぞよろしくお願ひします。



6月から観光振興型の地域おこし協力隊として活動しています。小西茉莉です。生まれ育った田村市を離れて改めて気づいた、四季折々の豊かな景色や温かい人のつながり。「もっとたくさんの人に田村の魅力を知ってほしい」という思いから、地元へ帰ってきました。情報発信やイベントを通じて「また来たい」と思えるような魅力発信と誘客づくりに取り組みます。どうぞよろしくお願ひします。



また来たい田村へ

海を越えて 英語指導助手 ペンリレー No. 159

6秒もかからず1万kmを越える

田村市に住み始めて、もう8年以上になります。これまで何度も、「アメリカに帰りたいと思うことはありますか？」と聞かれてきました。正直に言うと、その答えはとて簡単です。今の仕事も生徒たちも大好きですし、田村市の皆さんはいつも親切で、このすばらしい地域の一員でいられることを、とても幸せに思っています。ただ一つ、やっぱり少し寂しいのは、アメリカにいた家族のことです。もし家族と一緒に日本で暮らせるなら、私は日本を離れたいとは思いません。



アリソン・クレイさん
アメリカ合衆国・オハイオ州出身
(田村市に来て9年目)



活は疲れると思うかもしれませんが、でも、私たち4人は昔からとても仲が良いのです。家族の誰とも話さない一日など、まったく想像できません。予定が合わずに話せない日には、少し寂しく感じるほどです。スマートフォンやビデオ通話のおかげで、家族の顔を見ることができます。自分が育った家や、年月とともに変わっていく家の様子も見ることが出来ます。実際にアメリカへ帰って玄関のドアを開けても、違和感を覚えることはありません。たとえ画面越しであっても、今もあの家で暮らしているような気持ちでいるからです。最新の技術のおかげで、田村市からオハイオ州までの約1万km(6000マイル)という距離も、わずか6秒もかからずに越えられるのです。